

平成 22 年 4 月 28 日発行
第 149 号

康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel:(0548)32-0701 緊急用:090-1758-1712 Fax:(0548)32-1280

静岡県糖尿病協会(静糖協)会長を長年勤められた田中彰氏が辞められる事になりました。新会長には 現在 静岡県立総合病院で医師として活躍されている井上達秀先生が就任されます。公私共のお付き合いの中で色々多くの事を学ばせて戴きました。5/1“お疲れ様”の会で読んでいただく文面を下記に掲載します。

田中彰氏へ

「“事”の繰り返しを“糧”として」

1997 年 平成 9 年、静岡県糖尿病協会会長と成られて 4 年目の田中彰会長との出会いは強烈でありました。前任者の 静岡済生会病院 元副院長で在られた 石垣健一先生から、受け継いだ会長職で、当初から、“患者の立場で”という事を、何よりアピールしながら、こんな事を書かれる先生がみえるよと、当時 静岡厚生病院 現在 静岡済生会病院にお勤めの 稲葉直之先生の協会報に掲載された内容につき話をされ、私も「ランゲルハンス島はどこにある？」という文章を投稿させて戴いたのを思い出します。

私が田中さんに学ぶ事は、真直ぐで簡潔明瞭な姿勢でありまして、「正しいと考えて物申す場面では、一際 正確にきちっと自己表示をして、紳士的な言動の下、率先して行動を起こす“事”であります。

このような 静岡県糖尿病協会 静糖協会長としての行動でありましたが、一時は、京都大学教授から 現在 関西電力病院で 糖尿病学の重鎮として活躍されている清野裕先生との関係でも、協会の患者の代表と医療業界の関係として、大きな葛藤の中にあつたような事、そんな時期も経験され、なお一層 奮闘されていたようです。「社会的に、患者さんという立場は、弱者である」という間違つた概念を、身に沁みて、感じてみえた事、苦勞も多かつた事と思われまふ。

そのような“事”を 幾つも乗り越えられ、静岡に止まらず、全国に認められながら、日本糖尿病協会理事という立場でも活躍され、殆どの理事が医師であるという中で、物申す患者さんの代表という立場で活躍されました。そんな田中さんの行動から、パワーを戴き、私自身 何度も元気付けられた事を、思い出します。

私 個人的には、親子で継承した康寿会加藤内科医院の、創始者 加藤康二と私の間の仲介役として入って戴いたこともありました。また、ある時には 吉田町町長 田村典彦氏との交渉事に介入して戴いたり、私にとって ある意味 人生の一大事に「正しいと考えて物申す事であれば、正確に自己表示をして、きちっとした“事”を成しなさい」と、常に道標を示してくれていたようにも思われまふ。

何度も申し上げますが、最近の医療界、医師界に対して「正しいと考えて物申す事であれば、正確に自己表示をして、きちっとした“事”を成しなさい」というアドバイスは、田中氏からいただいた貴重な“教え”であります。「きちっと相手を、世の中を、訂正させる為には、前向きに 前を向いて 真直ぐに向いた時には、その方向付け、力強さを持ちなさい」と。

更に、あくまで患者さん自身の立場から「上から下に医療を降ろす人間には分からないぞ！」とおっしゃっていただけなのは、田中さんですし、上から下目線の医療業界の在り方に対して「患者である我々 患者の人権を守る、患者である我々の生活の原点を主張して、そこからの医療を...」と訴えてきた事、我々 医療に携わる医療人は“確”と受け止めるべき“事”です。

常々 強さを持った田中さんではありますが、同時に素直さを持ち合わせております。今の状況となって、病気を患い、脳梗塞を患ったところで“バリアフリー”という事がどれだけ当事者にとって有難いことが...を、素直に表現される田中さんの姿は、大変素晴らしい、人間性が表現されていると思われまふ。

一言で申し上げるとしましたら、「有難う」と申し上げたいと。会長職を辞するのと同時に、タバコはやめて、御自身の体調を十分に管理して下さい。その状況で、在りのままの姿で、田中さんそのもので、我々の 康寿会加藤内科医院の患者さんの会 陸会 81 回 82 回といらしていただく事は 是非とも 願う事です。その時々、生の一言を戴きたいですし、陸会に限らず、多くの経験を通した、的確なアドバイスを、今後とも、我々 医療人、特に頭でっかちの医師に対してのアドバイスを宜しく願います。

勝手 気ままな“事”を 申し上げました。

静糖協の会長職を辞するという事は、一つの仕事を成し終えて、次の段階 ステップに登るという事です。「一つまた見えないものが見えてくるのではないのかな...」という事で、お話し戴ければ 大変有難いと思ひます。

今後とも、宜しく願ひます。

2010.5.吉日.

医療法人 康寿会 加藤内科医院 院長 加藤寿夫

「 “ 榊原医師会の ABC ” から学ばせていただいた“事”」

- 親子 3 代 医師 2 代 “ 事 ” の繰り返しの中で -

加藤寿夫

以下は 2010.3.15.榊原医師会「開館 40 周年記念誌」に投稿した原稿です

「『地域住民の本物の自立と“健全な健康”』を第一義に -その 2-」

ここ半年余り「榊原総合病院の存続問題」が住民にとって大問題となっておりますが、経営母体を換える話を二転三転させながら、借金をさらに膨らましている状況です。大元の原因は 勝手・気ままな 地方自治の住民に対する「医療のコンビニ化を助長する政策、そしてこれに乗せられてしまった住民」 行政が聞く耳を持たず、十分な議論も無く起った「浜松医大からの派遣医師の引き上げ」これが脳外科医からはじまり、循環器内科医全員引き上げに及んだこと、そして最終的には 病院側の「救急医療放棄」につながったと考えます。

現在、金銭的な理由から議論され 9 月に断行予定であった公設民営化を、「指定管理者公募なし」の状況から、現病院職員が示した規模縮小(Down Sizing)策を直視せずに、行政側が 医療法人「徳州会」に懇願することにより、公設民営化の期限を来年 2010 年 1 月に先送りさせ、この方向付けを模索している状況のようですが、行政の独り善がりに対して、多くの有識者が呆れ果て、この件に関して、多くを語るなくなりました。

結局、情報が交錯しており、お互いの Communication がとれていない。茂庭将彦院長をはじめ浜松医大から赴任されている医師をはじめとする現職員側と、公設民営化を請け負う立場の医療法人「徳州会」側、この両者に対して、行政が間に入り、行政側の自己防衛の為に、責任転換の手段として両者が使われ、都合の悪いことは口に出さないから本筋の話し合いが成されていない、交渉になっていない状況。このように分析され、口を挿めば責任転換の矛先にされてしまい、誰も何も出来ない状態。社会情勢から行政の足元、大きなお金の動きまでのデータを分析し行動する力を持つ徳州会が、簡単に受諾する状況は皆無と思われず。このような行政の姿勢が定まらない状況、指摘しても訂正なく、曖昧な誤魔化しの姿勢は、行政の先程述べた の過程でも、市・町の会議でも同じことであると考えます。指摘されたら「正す」べきです。

地方行政との関わりの中で、医療を司る我々が知識人として、メリハリを付け、諦めず根気強く、交渉する必要性を痛感します。最終段階に突入、何も出来ない。“無力”“無念”を思い知る中で、医療を司る我々医師団が志高く、病院閉鎖後の情勢を考えて「脱病院化の先進地区」として前向きに捉える気概を持つべき時が迫っているように思われます。 2009.9.30.

上記の原稿を投稿してから、5 ヶ月余り“榊原病院問題”大きく“事”が動きました。行政と医療法人「徳州会」の交渉、行政の下した最終結末、その結果。以下の“時”一刻 刻んできた、今だ進行中の記事。

2009.12.5. 静岡新聞 P30 「町にとって病院は 2 次救急のとりで。...」, 2010.1.5. 静岡新聞 P26 「民営化『3 月目指す』徳州会幹部が意向『時間と勝負』準備急ぐ」、2010.1.28. 静岡新聞 P25 「榊原総合病院民営化後『自治体負担 年 15 億円試算』」「24 時間救急断らず」、2010.2.24. 静岡新聞 P31 「来月から正式民営化 徳州会の定款変更完了」、2010.2.25. 中日新聞 P17 「榊原病院『再生手術』民営化機に態勢改善」、2010.2.26. 静岡新聞 P31 「榊原総合病院再建へ『意思疎通図り医療守れ』」

牧之原市長 西原茂樹氏と 吉田町長 田村典彦氏、一市一町、「榊原病院閉鎖」という事態の回避の為、2 人の“長”の大きな覚悟の上の決断、これ以上の先送りは許されない“苦肉の策”であったと憂慮します。結論を出した以上、今後“行政と徳州会”“医師会と行政”“医師会と徳州会”、この三つを軸とする話し合い、榊南地区の医療を行う上で、そこでの交渉事が必要不可欠となります。繰り返しになりますが、行政(牧之原市・吉田町)に於いては、徳州会による公設民営化の締結までの交渉、ここで結論を出した以上、我々既存の榊原医師会 我々医師団とも向かい合っ、気概と危機感を同時に持ち、行動していただきたい。

今後の我々医師団 医師会側としては“医師会と行政”の関係を“行政と徳州会”との関わりとも絡め、ここに焦点を絞った、我々医師団の姿勢・ビジョンを明確に示す、住民そして会員の為の、医師会の運営が必要となります。この意味で、今後の榊原医師会執行部の仕事は大変重たい。行政の資金力には限りがあるのと同様に、我々医師団の戦力にも限りがある。軸足を地域住民に向けた、地に足の付いた運営を切望します。

最近の私 加藤寿夫自身はといいますと、この 3 月末迄で辞する榊原医師会理事 特に吉田町担当理事としての仕事を 現会長 小田原秀眞先生の下で仕上げて、小・中学時代を共にした斎藤信子先生に受け継いで頂く為に“四苦八苦”です。そんな中、メタボ健診に於いては、Cr(クレアチン)を検査項目として加えること、個別健診の導入等、「吉田町の行政の“変革の芽”」が拝見出来ます。思い起こすと、吉田町担当を 4 年前 現理事 岡野博一先生から受け継いだ際、「これから町とのパイプ役として町長にも仕えていなくては...」と意気込み田村典彦町長に挨拶に伺った“事”〔2006.5.9.〕を思い起こします。町長の言葉は衝撃的でした、何を意味したのか？ その後 何度か田村氏とお会いする中で、行政の立場の理解に努めた上、吉田町で開業する医師団の代表としてお話をさせて頂きました。しかし「若返り貯筋塾の広告折り込み〔2007.10.15.(月)〕」につき私が訂正を求めた“事”〔2007.10.22.〕あの頃、さらに本院の年 2 回の糖尿病患者さんの会「第 76 回 睦会」に町長自身出席され言葉をいただいた“事”〔2008.4.19.〕【康寿診報 第 130 号 P2,3 参照】あの頃から、町長は 徐々に 私 加藤寿夫とのコンタクトを拒み始めました。何が問題であるのか、毎回“事”のある度に 熟考し 自分に非があるか問い質して参りました。結論から申し上げますと、私が町長に問うてきた事に関して、何一つ町長に答えていただけない、そんな 毎回の“事”の繰り返しで、彼は私を遠ざけるしかなかったのでは...、結果 一年以上の長期 私のアポイントの要請に答える“事”の出来ない状況を田村氏が自ら招いたのでは...、と考えます。(以上の内容は、現吉田町町長 田村典彦氏の了解を得て 掲載しております)

私がここ数年間 自己の行動を自制する為、自分自身に言い聞かしている事、年頭所感にも毎年 記しております。

物事の判断は「正しい」か「間違い」かである。「質」を考え、毅然とした言動、後退せぬ責任、49 歳の自分に また一年 もう一年 課す言葉」です。 《平成 22 年 年頭所感》

直近の吉田町連絡会〔2010.2.12.“幸”にて開催〕に於いて上記内容、私の期間限定 父“康二”譲りの生き方を、真っ向から否定される先輩の先生がみえました。私は、下記の言葉を思い浮かべながら、喧々譁々の酒の入った話の中で、相手を受け入れる姿勢を十二分に持ち「この部分は受け入れられない拒否されても構わない、だが この部分は私を認めていただいてもいいのではないかと...」と懸命に話しました。最後は大切に握手を 2 回交わして 相当の酩酊状態で父と共に帰って参りました。

「物言わねば腹膨るおもい」見たこと、聞いたこと、感じたこと、みんなでいろいろな意見を出し合い、あるときは反駁し、あるときは共感し、会員の心のふれあい、心のゆきかいのなかに、新しきものを求めて・・・ 《平成 5 年“心のひろば”創刊時の に掲載された言葉》

祖父 半蔵さんは 強かった。医師でも無く、何の資格も無く、自己の正義を貫いた。
父 康二は 負けず嫌いで 大きな挫折も無く、自己の力で学を得て医師と成り、この地に開業した。
私にとって、中・高時代の父 康二は強かった。毎日、何かしら私に非が在ったのであろうが、殴られ蹴られ 縮こまって生活していた。ただし、父の愛情は享受していた。
そして、何よりの救いは、母 雅子さんの 私を守ろうとしてくれた母性本能であった。
多くの力に導かれ、人との出会いが在り、私は医師となった。
この吉田町で、父 康二の診療所を継いだ。
親父 加藤康二に、もう一つ、暴力をもってでも教え込まれた“事”が有ります。

「自分に間違いがあれば確として詫言 即訂正する。《平成 21 年 康寿診報 第 136 号より抜粋》

今回、この文面が公の場で陽の目を見る状況となった“事”、かなりの“難産”であった“事”、これを高所から見守って戴いた多くの榊原医師会の先生方が存在した“事”、多くの“事”に感謝します。
特定の先生から「しっかり きっぱりと 私自身の自己の生き方を否定された“事”」「出来る限りの 私の能力をフルに活かしても、説得出来ない“事”」。自己の再考・再建の上で、“糧”として今後活かしていきたいと、考えております。 2010.3.15.

過去 4 年間、榊原医師会理事 特に吉田町担当理事として行政に対し ことに 町長 田村典彦氏とは 本気で本音でお付き合いして参りました、その結果として受け止めて読んで下さい、ただし、私の感性から物申し誤解を生じていると致しましたら、お詫言申し上げると共に、御意見・叱咤・激励等、直接お話しいただければ幸いです。

榊原医師会「開館 40 周年記念誌 はいばら」には すべての私の気骨の“骨”の部分の削りまし た最終原稿(2010.3.31.付)が掲載されております。

《勉強会のご案内》

毎月通常の勉強会は原則第3土曜日 13:00 から開催です。
都合の付かない方には、ビデオ・DVD 学習をお勧めします。

6月12日(土)	インソラ療法について
7月10日(土)	糖尿病とは
8月21日(土)	薬物療法について
9月11日(土)	低血糖について
10月9日(土)	第80回 陸会
11月13日(土)	運動療法について

8/21 は、新薬についてもお話します。

《診療案内》

毎日朝 8:00 より 5 分間 阿波踊りの練習をしております。是非御一緒に!

診療時間	月	火	水	木	金	土
8時~12時						
15時~18時						

受付最終時間 厳守 とさせていただきます。

「朝の挨拶」の為 一般診療開始は 8:30 からです。
午後の受付は 初診は 17:30 まで 再診は 17:45 まで です。
休診日:日曜・祝日 木・土曜の午後 月末最終日の午後

ビデオ・DVD 学習は、個人の希望にも随時応じております。希望される方は、職員まで申し付け下さい。
今月「第 81 回陸会」は、「糖尿病治療の ABC を求めて」を 今後数年のメインテーマに、本院の糖尿病治療の実際 そして治療を良い状態で継続させる為には何が必要か、皆さんと共に考えてみたいと思います。
杉山晴子管理栄養士による「加藤さん家の食卓実習」調理実習を 6/12(土)・7/10(土) 9:30~12:00 実施します。食材費 500 円で プロのテクニックを自分の食卓へ応用して下さい。詳しくは栄養士杉山へ。

《特定健康診査・保健指導(メタボリックの健診)について》

現在の状況で、内分泌代謝科・糖尿病の専門医として、あえて言いたいことは、

糖尿病に関して「ヘモグロビン A_{1c} が 5.7 以上(空腹時血糖が 100 以上あるいは食後血糖が 140 以上)なら、まずは糖負荷試験(GTT)を施行」すること。その上で「必要に応じて 医療・栄養指導」を含めた保健指導を受け「食事・運動の見直しを!!」

最近の管理目標値は、「ヘモグロビン A_{1c} が 5.8% 以下」「血圧 140/80 以下、『さらに合併症をすすめない』とすると 120/75 以下」「悪玉コレステロール(LDL-cho)120 以下、『さらに動脈硬化を進めない』とすると 100 以下、『虚血性心疾患・脳梗塞病巣の動脈硬化を消退させる』とすると 80 以下」とされています。

何人かの本院受診中の患者さんに問われましたが、慢性疾患 特に糖尿病・高血圧・高脂血症等の生活習慣病で一般内科へ定期的に通院中の方であれば、毎年のメタボの健診項目は、普段の日常診療の中で十分に網羅されている内容と思われます。疑問点等ありましたら、何なりと本院職員にお尋ねください。

毎年のように、町は保健指導についての実施内容・予定について具体的な説明は皆無の状態です。メタボの健診ということで本気であれば、何より「保健指導の重み、事後処理の大切さ」を、住民に示すべきです。これがなされない状況では健診の意味がありません。

行政が疎かにしている点は、個人が自覚し「自分の健康は自分で守る」姿勢を一層強化して補って下さい。

《肺炎球菌ワクチン予防接種のお知らせ》

今年度も、吉田町では独自の助成があり、6月より 70 歳以上の方は接種代金 ¥8,282 の全額町の負担。個人負担無し(無料)で行なわれます。保健センターにて助成券を受け取った上で受診して下さい。他の市・町の一般の方は ¥8,000 にて実施中です。

《臨時休診のお知らせ》

お薬を切らさないように 気を付け下さい。

6/25(金)・26(土), 7/23(金)・24(土)・26(月)は 休診です。

6/6(日)は当番医にて 9:00~17:00 急患のみ受け付けます。

臨時休診は数ヶ月前にお知らせします。確認の上での受診をお願いします。